

**2026年度AO選抜 文学部 人間研究学域**  
**「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・朝鮮語）」**

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
人間研究学域	13	10	5

**2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

「レポートとしての体裁を満たしているか」、「論理的な文章の組み立てができているか」、「学域の教育研究活動や、カリキュラムに対する関心や理解があるか」、「自身の学術的関心や、将来に対する希望を表現できているか」といった観点から評価した。

(2) 解答状況

おおむね、提出されたレポートは(1)の条件を満たしていたが、「論理的な文章の組み立てができているか」という観点からは不十分な文章もあった。また、ほとんどのレポートは個人の経験に根ざした関心や動機を魅力的に語っているが、それを一般的な思考の枠組みに接続しようとする工夫はあまり見られなかった。

**3. 第二次選考**

(1) 評価ポイント

提出されたレポートに即して質問をおこない、受験生が他人に理解可能な仕方で自身の関心や希望を述べることができるかについて評価をおこなった。また、「どうして立命館大学でなければならないのか」、「なぜ人間研究学域なのか」についても応答を求めた。

(2) 解答状況

おおむね、(1)の条件を満たす仕方で応答がなされた。ただし、「どうして立命館大学でなければならないのか」、「なぜ人間研究学域なのか」についての答えが具体性に欠け、説得力に乏しい受験生もいた。

(3) 試験（面接）内容

(1)の方針にしたがって面接をおこなった。積極的に応答することができた受験生に対しては、さらに学術的関心を掘り下げる試問を重ねた。

(4) 出題（面接）の意図

(1)の方針を立てたのは、(a)提出されたレポートを執筆者本人が実際に理解しているか、(b)受験にあたって本学の教育理念や、カリキュラムの内容をリサーチし、準備しているか、(c)どれほどの意欲や、将来の展望をもって受験にのぞんでいるかを確かめるためだった。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

人間研究学域では、哲学的・教育人間学的観点から人間や社会についての深い思考をめぐらすことができる人を求めている。この AO 選抜（国際方式）では、質疑応答を通じて受験生の問題関心を掘り下げることにより、人間研究学域での学びとの適合性を念入りに査定しようとしている。

国際方式の入試であっても、単に海外体験や異文化体験を語るだけでなく、それが人間研究学域への志望にどのように結びつくのか、その展望について、本学域の学びの特色を十分にリサーチした上で、できるだけ具体的に思索して、借り物ではない自らの言葉で語る事が求められている。その点をよく意識して、受験に臨んでほしい。

以上